日本列島情報ネット
関西版
大阪支社
〒550-0044
大阪市西区靭本町
1丁目15－10（森田ビル）
電話・06(6445)6935
FAX・06(6445)6938

きらりと光る わが社の"得意技"

ゴーシュー

後藤社長

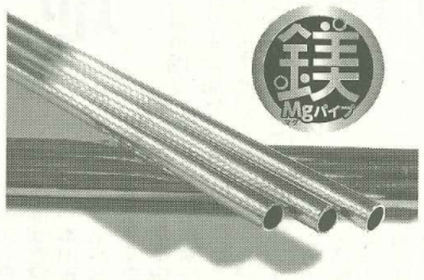
ゴーシュー（本社・滋賀県湖南市、社長・後藤充啓氏）は、1946年創業の金属鍛造部品メーカー。エンジン・シャシー・トランスミッション系部品などの製造が強みで、専業熱間鍛造メーカーとしては業界トップクラスの業容。社員は300人。

国内グループ企業は5社（ゴーシューホールディングス・上越工業・三恵工業・九州精鍛・駒月）、海外はインドネシア、中国、メキシコに拠点を持つ。2017年度売上高は連結499億円、単独202億円。

医療用マグネシウム合金パイプ
生体吸収性よく、高強度

マグネシウム合金パイプ「Mg（マグ）パイプ」（特許出願済）は2005年、得意先メーカーから自動車・二輪車用部品での試作品の製作要請が契機となった。その後、医療メーカーからの要望で医療分野に向けた研究開発を開始。2012年には医療分野向けにマグネシウム合金のシームレスパイプ「Mgパイプ」の製作を開始した。

「Mgパイプ」は体内留置型の医療機器であるステントの部材として用いられる。ステントは、血管など人体管腔内の狭窄部を内部から拡張保持して、血流を改善させる医療機器。素材がMgであれば、血流改善して拡張保持が不要となった後に約1年で体内に分解・吸収される。



医療用マグネ合金パイプ「Mgパイプ」

「Mgは数十年前から夢の素材と言われ、様々な産業の戦略材料として研究開発が進められている。ただ、塑性加工の難しさに起因した、コストの高さがネックとなっている。当社では創業以来70年余り培ってきた塑性加工技術と成形技術を駆使し、Mgのシームレスパイプ（商品名『Mgパイプ』）を製作。Mgパイプは現状、医療メーカーへサンプル品を納入している段階。国内は医療機器認証をクリアする必要があるが、ステントを軸に量産案件を創出していく」（同社）。

「Mgパイプ」の仕様は直径1・6ミリメートル以上、肉厚0・1ミリメートル以上、内外面の表面粗さ（算術平均粗さ・Ra）が0・1マイクロメートル以下、長さ2メートルまで、同軸度0・015ミリメートル以下となっている。「最大の特長はMg本来の特性である生体吸収性だが、その他にも塑性加工による高強度、高延性、光沢性、高耐食、薄肉化などがある」（同）。

冠動脈ステントの国内市場規模は年間約30万本（14年、出荷ベースで約600億円）。世界市場規模はその10倍以上あり、膨大。

「日本国内で医療部材としてMgパイプに注力しているのは当社を含め数拠点ある。その内で当社が唯一、円柱材からの押出工法のみでMgパイプを製作している。川上の国内外精錬メーカー、川下の国内外医療・医療器具加工メーカーに、当社が技術面で信頼されることが肝要。パートナーとともに地道に事業化を進めていきたい」（同）。

（白木　毅俊）